

写真の町シバタ物語 ―110の記憶―

9月29日(土)～10月28日(日) 市内各所・まちの駅 無料
新発田の商店街が写真アルバムに。それぞれのお店には、数多くの物語が隠されている。懐かしい記憶の1ページが、その場所に蘇る。
10月1日(月)～10月28日(日) まちの駅に「110の記憶」を一同に展示。

昭和55年商店街の記憶 ―初売りの輝き―

9月29日(土)～10月28日(日) 地域交流センターあおり館 無料
ALWAYS。元氣だったあの頃、夢がありみんなが前を向いていた。時代が変わっても変わらないものがある。地域交流センターあおり館に初代サンチャン・高橋写真館店主・高橋三作が撮影した商店街の写真を展示。

士族から写真師になった丹後寛一郎の写真館

9月29日(土)～10月28日(日) 9時～16時 市島酒造 無料
その昔、その一帯は諏訪神社内と呼ばれていた。新発田で一番古い丹後写真館は諏訪神社内、現在の市島酒造付近に旅館な佇まいを見せていた。長い時間を経て丹後写真館の乾板写真が復活する。

復活 熊谷写真館

9月29日(土)～10月28日(日) 第四銀行新発田支店 無料
新発田歩兵十六連隊軍写真師であった熊谷徳三郎は第四銀行新発田下町支店隣りに写真館を開いた。昭和20年米軍の目標になるとして強制取壊しとなったが、戦後再び写真館を建てた。現在は閉鎖してしまっていたが、残された戦前・戦中・戦後の記録写真や絵ハガキには、当時の時代や戦後復興にかける人々の思いが写しこまれている。

清水園庭という宇宙

―田中泰阿弥・清水園をデザインした庭師―
9月29日(土)～10月28日(日) 清水園 入園料700円
庭師・田中泰阿弥の手が入る前の庭の写真、図案を書院に展示。現在の庭と比較してみませんか。同時開催「越後の豪農伊藤家 明治の絵葉書展」

石泉荘 ―四季の写真と共に―

9月29日(土)～10月28日(日) 石泉荘 入園料800円
庭の中央を新発田川が流れる石泉荘、銀閣寺や京の名園。そして、清水園も手がけた田中泰阿弥が石泉荘の庭を見て、見事と記している。四季折々の石泉荘の写真を展示。
「写真の町・シバタ」の開催に合わせ、「清水園と石泉荘」共通入園チケットを販売。
◎1000円(有効期限 9月29日～10月28日(10月7日使用不可)) 販売 両庭園

新発田高校のタイムカプセル大公開

―俊傑の記憶―

10月6日(土)～7日(日) 10時～15時 新発田高校内 杉原記念館 無料
新発田高校併設の杉原記念館に初代木造校舎、初代校長の写真、漫画家・寺田ヒロオなど、多くの資料をアーカイブ。2日間限定公開、必見。

ハワイの家族

10月27日(土) 13時～16時 顕法寺 無料
ハワイ発見された1枚の家族写真。その写真は、100年以上も前に新発田のある写真館で撮影されたものだった。新発田に家族を残し、単身、ハワイに出稼ぎ移民に行った高橋三三。写真は彼の死後、彼のハワイの家族によって大切に保管されてきた。本講演は高橋三三のふたつの家族を繋ぐ写真の物語。講演前にはフラ・マカマエの子供たちがアラダダンスを披露。さらに、来日するハワイの家族がハワイアンソングを歌う。来場者20名に抽選で作家Robo制作の毛糸のレイをプレゼント。

絵はがきに見る昔の新発田 ―大正から昭和―

9月18日(火)～10月14日(日) 9時30分～16時
新発田市立図書館1階坪川記念室
ありし日のまちなみ、新発田名所月岡・赤谷などの景勝地を絵はがきをもとに紹介。

シバタ近郊の風景写真展 日本写真会新発田支部

9月29日(土)～10月28日(日) 新発田信用金庫ショールーム

赤ちゃん写真プロジェクト(継続事業)

9月29日(土)～10月28日(日)
赤ちゃんを優しくする。会話が弾み、思わず笑みがこぼれる。プロジェクトメンバーが赤ん坊の頃の写真を胸に活動。赤ちゃん写真で街を楽しくしたい。

新発田アーカイブス発足(継続事業)

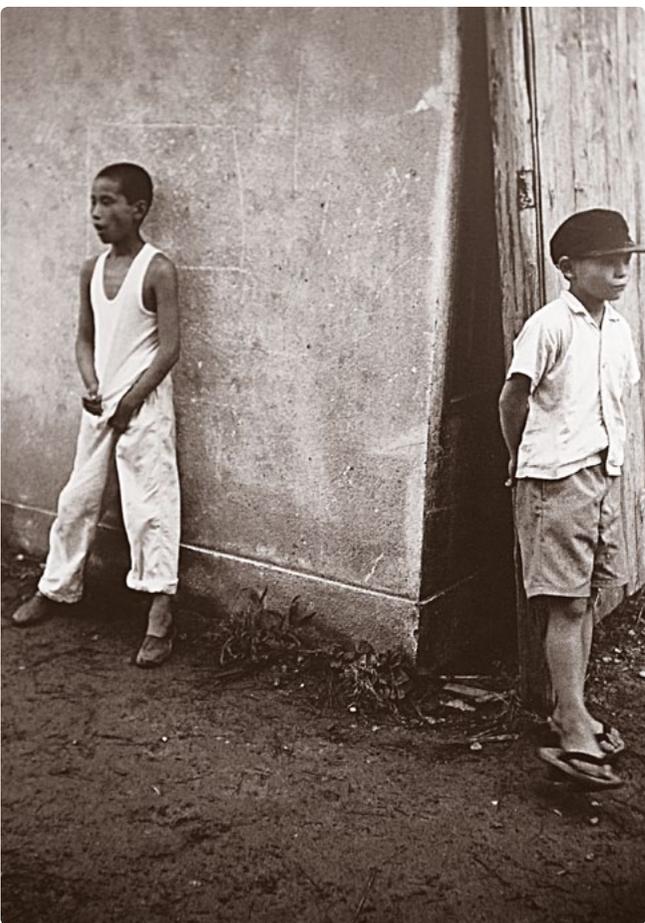
―宝を未来に残すプロジェクト―

10月9日(火) 15時～17時 新発田学研究所 無料
映像上映「吉原家の140年」 トークセッション/神田より子 吉原悠博
新発田に眠る写真資産は危機に直面している。残された写真資産を集め、スキヤニング・メタ情報・発表・公開のシステムを完成させる。新発田の宝を一緒に探そう！

写真の町・シバタ

写真には人と人を繋げる力がある

2012年9月29日(土)～10月28日(日) 新潟県 新発田市各所



撮影：大竹静市郎

あなたは自分の町の一昔前がどんな景色だったか知っていますか？ どんな人が生きていたのか、暮らしていたのか知りたくありませんか？ 知らず知らずにありし日の街の景色や、そこに生きていた人の記憶は薄れゆくものです。そんな消えつつある「街の記憶」を写真を通して知ってもらいたい。
そして、次の世代に「街の記憶」を伝えていくことを目的に「写真の町・シバタ」はスタートしました。

新発田は間違いなく写真の町だ！ (写真家・細江英公)

新発田の街にすっかり魅せられてしまいました。平間至さんの故郷塩釜と、私の故郷松江と、写真でつながればと思いました。(俳優・佐野史郎)



